

ようちえんで
であった
星のこどもたち

～いつもいっしょだよ、こうた～

Our best friend, Kota forever

絵	なかつちみさ	Illustration	Misa Nakatsuchi
文	つたきかいと	Japanese	Kaito Tsutaki
英文	さとうきりえ	English	Kirie Sato

人は、あまりにも大きな衝撃を受けたとき、それを一人で受け止めることは難しいそうです。

喪失の悲しみは、慟哭、怒り、無感情、不眠、暴眠、過食、不食、笑い、など、ありとあらゆる表現を駆使しても癒されるとは限りません。被害当事者は、その感情表現を、自分でコントロールできないために、誤解を生み、それでまた傷つきます。

この本は、海人君と滉太君の物語です。突然の友達の死を、懸命に受け止め、理解しようとする姿。大人達が海人君に寄り添い、一緒に支え合う姿も想像できます。

この2人は本当に遊んでいるのかも、とも思えます。(ちょっとうらやましいです)

愛情いっぱいに育った滉太君のいのちは、奪われました。滉太君の愛、家族の愛、お友だちや地域の人々の愛情、それら全てが失われたのです。

こんなに悲しいことはありません。

滉太君が生きていたこと、彼の幸せも不幸も、まるごと私たちの心に刻みたいと思います。心のポケットに大切にしまって、一緒に生き直す方法もあります。

日々の生活の中で、突然に滉太君を思い出す瞬間があるかもしれません。

そのときは、本当に滉太君が隣にいるのかもしれません。

それは、別の物語の始まりなのです。

被害者支援を創る会・東京都日野市議会議員 菅原なおし

ようちえんで であった 星のこどもたち

～いつもいっしょだよ、こうた～

Our best friend, Kota forever

絵	なかつちみさ	Illustration	Misa Nakatsuchi
文	つたきかいと	Japanese	Kaito Tsutaki
英文	さとうきりえ	English	Kirie Sato

ぼくがようちえんにはいって
はじめてのともだちはこうだったよ。
こうたはね
ぼくとたくさんあそんでくれて
いつもにこにこしてて
おもしろいともだちだったんだ。

My first friend in the kindergarten was "KOTA".
Kota was always smiling. That made me happy.
I and Kota played together a lot.



こうたはね ぼくとおなじ
ガンダムがすきで
ポケモンのシールもだいすきだったから
しぜんといっしょにいられる
ともだちだったんだよ。
だけどたまにはけんかもしたけどね。

Because Kota liked GUNDAM and
POKEMON stickers as I did.
We spent good times like when we are playing,
although we had fights sometimes.





これからもたくさんあそぼうね
ってはなしをしていたのに
こうたはとつぜん
いなくなっちゃったんだ。

「ははのひ」っていう
ままに「ありがとう」をいうひ。

We promised we would play more and more.

But he disappeared suddenly.

That was on Mother's day.



みどりのたくさんあるかわのところでじこにあったんだよ。
ぼくもじこにあったことあるけど
そのときはちょっとくびがいたくなっただけで
なんでもなかったよ。

だけどころたはくろいくるまにのって
どっかにいこうとするから
どうしてそんなこわいくるまにひとりでのるの？って
なみだがでてきたよ。



He got into a car accident at a road by a river, with trees and green all around.
I also got into a car accident.
I remember that I got hurt in my neck a little at that time. In my case, that was all.
But Kota rode off in a big black car.
I just wondered why he was riding alone in such a scary car. And tears filled my eyes.



こうたのパパとママはいつも泣いてた。
こうたがいないから。

ぼくもようちえんでまってるのに
まいにちまいにちこないんだ。
なまえがあるからいつきてもいいのにね。

Kota's mom & dad were always crying.
Because Kota was gone.

I also wait for Kota every day,
but he has not come to kindergarten. Yesterday, today...
There is Kota's name on the shoes box in our class as usual.
So he can come back anytime, I think.



…でもね よるになるといつも
こうたはぼくのところにくるんだよ。
But at night time, Kota always comes to my room.

いつもあそんでた かいじゅうこうえんで
ウルトラマンごっこしたり
すべりだいであそんだりしてね
とってもたのしいんだよ。

So, we go to the Monster Park where we always play
ULTRAMAN and go down the slide.
It's very fun!!



このまえはいうしょにつりをしたんだ。そしたらぼくがかわにおちちゃって いつのまにかさかなになってて こうたがぼくをつりあげてくれたんだよ。

The other day, we went fishing together.I fell down into the river, and then I became a fish!!And Kota caught me!!



こうたがとってもながいかいだん
のぼっていったときは
ぼくもいっしょにいったよ。
でもね こうたは
ながいかいだんのさきにはいきたくないって
ぼくといっしょにもどってきたよ。

He was climbing up a long stairway, so I followed him.
But he suddenly stopped and said,
"I don't want to go any further,"
then he came back with me.



こうたはまだまだたくさんあそびたいって。
いつもバイバイのときに
「またあそぼうね」って言って
パパとママとおにいちゃんとおとうとのところへ
かえっていくんだ。

When it's bye-bye time, Kota wanted to play more,
but he had to go home, so he said "Next time!!"
Then he went home where his dad, mom and brothers were waiting.



あるひこうたは

「いつもいっしょにあそんでくれてありがとう」っていうんだ。
みんなにありがとうっていうからやさしいんだ。

One day Kota said "Thank you for playing with me."
He is very kind, because he says "Thank you!!"



いつもみんなとあそんでるかいじゅうこうえんで こうたはみんなと

てをつないで「ては はなさないでね」 っていうんだ。

At the Monster Park, he handed all his friends, and said "Don't let go of my hand."



だからぼくたちも
「はなさないよ」って やくそくしたんだ。

So we promised, "we won't let go of your hand."



こうたはね おほしさまで
じぶんをなおしてもらうじゅんばんを
まってるんだって。

Mom told me Kota is waiting on a star for his turn to be fixed.



ぼくもたなばたで
「こうたをはやくなおしてください」
っておねがいたよ。
だって ぼくもこうたも
まだまだいっしょにあそびたいんだもの。

I made a wish to a star to send him back
as soon as possible on TANABATA, the seventh night of July.
Because we still want to play together, more and more.

みんないっしょに おおきくなりたいよね。
おほしさまのじゅんばん
はやくくるといいね。

We want get old all together, don't we?
I wonder you would be fixed soon.
I can't wait for your turn to come next.







1999年8月31日午後1時10分に滉太は生まれました。体重2562g、身長45cmという小さな赤ちゃんでしたが、この世にデビューしてからはスクスク育ち、1ヶ月後には4256g、52cmと見る見る間に大きくなっていました。

世話のかからない子だったので、「滉太みたいな子なら何人いてもいい」と言っていたほどです。

滉太は1歳9ヶ月違いの兄、1歳と1週間違いの弟に挟まれ、とてもおとなしい、けれども元気のよい子供に育ちました。次男ながら要領はよくなく、1歳のころ、自分のポップコーンをお兄ちゃんやお父さんにあげ続け、いざ自分が食べようと箱に手を入れて探るとからっぽで、「あれえ〜？」などと言っていました。

滉太はお兄ちゃんを取り合いになるとすぐに譲ってしまうので、私は「もっとわがままにしていいいんだよ」と、よく声をかけていました。

滉太はお兄ちゃんや弟が大好きでした。

生まれてから一度も、一人になったことのなかった滉太は、2004年5月9日午後1時05分、大きな車にはね上げられ、一人きりで旅立ってしまいました。

滉太にはたくさんのよいお友達がいました。短いけれど、生きている間、滉太は精一杯楽しんだと思います。はねられる直前まで、幸せいっぱい笑顔でした。

周りが楽しそうにしていると、それを見てニコニコ微笑んでいる、そんな滉太がいじらしく、とても愛おしいです。

今も笑顔でいることを祈っています。

滉太の母 中土美砂

まだ4歳の次男・滉太は、私達家族のすぐ目の前で暴走車に撥ね飛ばされ、収容先の病院で息を引き取りました。例えようのない悪夢です。

しかし、被害者遺族は、己の保身を優先する加害者の姿、責任を互いに押し付けあう警察と検察、そして、真実が語られることなく終局を迎える刑事裁判によって、さらに悲痛な体験を強いられることも多々あります。

私達は、ドライバーの思い上がりや自己中心的な運転によって引き起こされる多くの交通事故を憎みます。そして、被害者遺族のみならず、被害者本人の最後の人権をも軽視する現行の検察制度、刑事裁判制度にも憤りを感じます。

それでも私達は、滉太が大好きだった皆が過ごし、これから滉太が大好きになるはずだった多くの方々が生活するこの社会を諦めてはいません。皆がもっと互いを思いやり、このような悲しい交通事故のない、子供たちが安心して成長できる社会が実現できますよう…。

滉太の父 中土一孝

この絵本の話は滉太が亡くなった日から海人が見ている夢の話です。ある日突然お友達を亡くし、お金では買えない命をなくした事を海人は幼い4歳で知る事になりました。「滉太を抱き締めたい、触りたい」海人の願いです。子供の模範となるべき大人が罪のない子供を交通事故死させてしまう現実は悲しいです。この本をきっかけにもう一度家族と交通安全について話し合う機会を設けて欲しいと思います。最後にこの本に関わって下さった多くの方に感謝します。

海人の母 蔦木清美

協力／皆川浩美・植村ひとみ・岩崎美香・田中淑子・佐藤季里枝

私たちは大勢の方々にこの絵本を読んでもらいたくと思っています。
興味と関心のある方はEメールアドレス kouhoshi@gl.mm-m.ne.jp にご連絡ください。

ホームページアドレス <http://www.mm-m.ne.jp/kouhoshi> 定価1,000円

星のこどもたち製作委員会